

教育

義務教育学校に移行しました

◆小中一貫校から義務教育学校へ!

平成29年4月から多久市の小学校と中学校は義務教育学校に移行しました。多久市では平成25年度から小中一貫教育を開始し、小学生と中学生がひとつの学校で学ぶ教育実践を積み重ねてきました。これからは「義務教育学校」として名実ともに9年間の教育を実践します。

義務教育学校のQ&A

Q 「義務教育学校」とは?

A 「義務教育学校」とは、小学校課程から中学校課程の義務教育を一貫して行う学校のことです。学校教育法の改正により、これまでの「小学校」、「中学校」に加え、「義務教育学校」が新たな校種として位置づけられました。

Q 学校名は?

A 学校名は、これまで小中一貫校の愛称として使ってきた多久の伝統教育を引き継いだ「東原(とうげん)舎」を正式な校名とします。

○中央小学校、中央中学校は「多久市立東原(とうげん)舎中央校」

○東部小学校、東部中学校は「多久市立東原(とうげん)舎東部校」

Q 「義務教育学校」移行での目標・目的は?

A 「義務教育学校」へ移行することにより、これまで小学校、中学校別々の業務の一本化などにより効率化を図り、教職員がさらに子どもたちと接する時間を増やし、子どもへの愛情を今まで以上に注がれる環境を作ります。また9年間を見据えた独自の教育計画により学力向上の取り組みをより推進します。

これまで行ってきた小中一貫教育を義務教育学校移行によりさらに良いものへと進めていきます。

問い合わせ 教育委員会 学校教育課 ☎75-2227

教育長コラム

ちよっといい話



子を思う心に勝る子の心

受験間近のある日、相談がある生徒がやって来た。「父がリストラされた。安全圏の県立高校に変更する」との申し出。進学高校を目指し、不合格の場合は私立高校へと三者面談で決定していた生徒だった。保護者に連絡すると、リストラを知っていることに驚愕された。子どもの前で話をしていないし、子どもも親には言わずに学校に相談したということ。

私は、家族の一員として経済的協力を決意した成長に感謝すべきと伝えた。

子どもたちは敏感で優しい。度々、子の方が親を思っている”と感じることがあった。

教育長 田原 優子

市民文芸

◆下駄履きでどこへ行くとも決まらずに
緒の感覚をたしかめて見る
田淵ミチ子

◆紅梅の香りを放つ園を訪ひ
穏しき一日君と歩めり
本村 則子

◆此の日頃明けても暮れても
短歌詠めず
われの脳みそお手上げ才前
福島那智子

◆「やさしさは金では買えぬ」と夫の言う
感謝の気持ち伝えてくれたの
梶原恵美子

◆うなり声あげて風鳴るこの夜の
扉を開けて曙光迎えむ
尾形 節子

◆強東風に声を消されし別れ道
武富 律子

◆雪の朝町の時報のわらべ唄
中嶋 清子

◆雪降るや昼を灯して句に籠る
富樫 明美

◆落椿天に向くもの伏するもの
田中あつ子

◆菜の花の戦ぐほとりの水の色
倉成 皓二

◆春風が試着室へと誘い込む
大谷 和

◆句会の絆句会の旅で盛り上げる
松下 修

◆川柳で脳に活力注入し
田中 正春

◆計画のときは見事な心意気
西山 残月

◆こだわりを捨ててすっきり胃が軽い
高塚チカ子

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

俳句 《大石ひろ女 選》

川柳 《多久市川柳会 互選》